

## 令和6年度練馬区立開進第一小学校 学校評価報告書

練馬区立開進第一小学校  
校長 海老沼 寛之

## 1 自己評価結果

## (1) 概要

今年度は評価アンケートの項目を一部変更した。また、より保護者の意見を取り入れるため、オンラインによる自由記述欄を新設した。児童については、各評価項目において「思う」「少し思う」を選んだ平均値が84.3%となり、概ね肯定的な回答となった。保護者については、平均値が74%となった。

児童、保護者共に数値が高かったのは「授業はよくわかりますか」（児童94%、保護者・地域93%）と「学校行事は楽しいですか」（児童94%、保護者・地域98%）で、新型コロナウイルス感染症による制限がなくなり教育活動が大きく広がったこととホームページ等により学校情報がより伝わるようになったことが要因と考える。逆に保護者の平均数値を大きく落とす要因ともなったのが「自分からすすんで読書をしていますか」（児童72%、保護者・地域53%）で、来年度から始まる電子図書館等を活用し、読書への動機づけをしたり、読書する機会を増加する等、読書に対する取り組みを見直し、精選された教育活動の更なる充実を図る。

## 2 学校関係者評価

## (1) 総括

## ○児童と保護者・地域の皆様とで関連を見る質問

上段：児童への質問 下段：保護者への質問	児童の肯定的な 回答の割合	保護者・地域の 皆様の肯定的な 回答の割合
1 学校は楽しいですか (お子さんは楽しく学校に通っていますか)	90%	93%
2 授業はよく分かりますか (学校は学力や学ぶ意欲を高める授業をしていますか)	94%	93%
3 自分からすすんで読書をしていますか (お子さんは自分からすすんで読書をしていますか)	72%	53%
4 あいさつはすすんでできますか (お子さんは自分からすすんであいさつができますか)	89%	75%
5 自分のことは好きですか (お子さんは自己肯定感が高いですか)	80%	74%
6 学校行事は楽しいですか (授業以外(行事等)で子供たちの頑張りが見えますか)	94%	98%
7 家庭学習の時間 学年×10分やっていますか (お子さんは家庭学習を学年×10分やっていますか)	76%	74%
8 運動や遊びなどで体をよく動かしていますか (お子さんは運動や遊びなどで体をよく動かしていますか)	88%	75%

## 1の考察

「明日も学校に行きたい。」と毎日子供たちが思って、前向きに登校できることが何よりです。数値としては児童も保護者も9割を超えていて高いのですが、1割程度は否定的な回答をしている子、保護者もいるということは肝に銘じなければなりません。そういった子たち一人一人にも寄り添い、学校が楽しくないと感じているその理由を知り、改善していければと思います。

## 2の考察

子供たちが学校にいる時間の多くの時間が「授業」の時間です。その授業がよく分かるということは、子供たちが学校に来るモチベーションにもつながります。数値として高いので、今後も私たち教員は教材研究を念入りに行い、子供たちの実態を見極め、分かりやすい授業づくりを目指していきます。

## 3の考察

読書に対する取組は、夏休みの図書室読書機会、秋の読書旬間等を行っています。PTA サークルマザーグースの皆様の読み聞かせも本当に有難いです。児童と保護者等の数値が離れているのは、学校で本を読んでいる、家庭では読んでいないという子が多いのかもしれませんが、いずれにしても数値は高くないので、読書をする時間、読書の意義、読書への動機付け等、学校として読書に対する取組を見直し、改善を図っていきます。

## 4の考察

毎朝、校長が正門に立ってあいさつをしています。子供たちはよくあいさつをしています。代表委員会の児童が毎週水曜日にあいさつ運動をしてくれているのも、確実によい効果となっています。しかし、保護者等から見たら、「すすんであいさつ」という視点ではもっと頑張してほしいということかもしれません。あいさつをすると元気になりますし、笑顔になります。あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本です。粘り強く・継続して学校でもあいさつを活発にしていきます。

## 5の考察

自己肯定感を見る質問です。一人一人に必ずよいところ、得意なところはあります。それを自分自身で自覚すると、もっと自分のことを好きになるかもしれません。そのためには、周りの大人、友達からの称賛が何より大切だと思います。学校では、「今日、輝いていた人」をクラスで帰りの会に発表したり、全校朝会等で特技を披露してもらったり、表彰をしたりしています。子供たちにはもっともっと自信をもってほしいです。ぜひ、御家庭でも、お子さんのよさをたくさん褒めていただき、「自分を好きになる子」が一人でも多くなるとよいですね。

## 6の考察

今年度は、開一まつり・運動会・かいいちアートの森等の全校での学校行事がありました。その他にも移動教室に代表される各学年での行事もありました。行事は普段の授業とはまたひと味違う体験ができ、力が身に付きます。来年度も充実した学校行事、真に子供たちのためになる行事を企画・立案し、実施していきます。そして、子供たち自身がつくり上げていく部分も大いに入れていくことで、「よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を養う」という学校行事の目標達成にもより近付けると思います。

## 7の考察

家庭でも学習をする習慣を身に付けることが大切です。そのための一般的な目安が小学校は、学年×10分とよく言われています。復習・予習・読書・自主学習等内容は様々考えられますが、「やらされている」から「自分からやる」という姿勢に導いていく必要があります。そのためにも子供たちにどんな働きかけをしていけばよいか、家庭学習の習慣を身に付けるためにどうしたらよいか、教職員で協議していきます。

## 8の考察

5月に行った「新体力テスト」の結果を見ると、1年女子・5年男子・6年女子以外は、体力テストの合計値が、東京都の平均を超えました。学校では金曜日の朝遊び、中休み・昼休み、体育の授業、もりもりウィーク等、運動や遊びをする時間をとっています。子供たちの数値が9割に迫っているのは、そういう時間に遊び、運動をしているという意識が高いからでしょう。運動や体を動かす遊びをすると、体力が付きやすくなり、健康な身体づくりにもつながりますし、共に活動する仲間がいれば仲間とのコミュニケーションもできます。こういったことを子供たちに更に意識させ、「運動の日常化」(学校以外でも)を図っていきたいです。

### ○児童単独の質問

質問	肯定的な回答の割合
1 学習用タブレット端末を活用していますか	85%
2 自分はみんなのために役に立っていますか	75%

## 1の考察

学習用タブレット端末は、今の6年生が3年生になったときから導入されました。4年生以下は、入学したときから、タブレットが当たり前にある学校生活です。ただし使用と活用は別物ですし、学習形態・内容によって効果的に活用できることが大事です。これからの情報社会、このようなタブレットを使いこなしていく能力が更に求められると思います。関連内容を学校だより6月号にも掲載してありますので、併せて御覧いただければ幸いです。<https://cms.nerima-kyo.ed.jp/weblog/files/110/doc/93892/799233.pdf>  
タブレットを文房具の一つとして活用できるよう、今後も授業の中でも積極的に取り入れていきます。

## 2の考察

自己肯定感に加えてもう一つ子供たちに高めてほしいのが「自己有用感」です。学級、学年、あるいは学校全体の中で自分という存在が人から認められ、その集団の中で役に立っているという思いをもつことができれば、更に学校生活が充実し、自信をもてると思います。学級での活動、学校行事等で、一人一人が活躍できる場面を多く設定し、そこで自分の力を発揮し、皆に認められれば、必ず自己有用感は、高まると思います。意図的にそういう場面を多く設定し、「自分はみんなのために役立っている」と一人一人が思えるようにしていきます。

## ○保護者・地域の皆様の単独の質問

質問	肯定的な回答の割合
1 お子さんが安心して生活を送ることのできる学校ですか	93%
2 学校の情報・状況はよく伝わっていますか	82%

## 1の考察

毎日、保護者の皆様が送り出してくださり、日中の多くの時間、学校で生活している子供たち。そこが安心してできる場所でなければなりません。肯定的な回答が9割を超えていますが、これからのいじめ・差別・からかい等がなく、安心して生活ができる学校づくり、そして緊急時（地震・火災・不審者侵入等）にも落ち着いて行動できるような定期的かつ実践的な避難訓練の実施、全教職員で校舎内外の環境面の安全点検を繰り返すこと等、抜かりなく行っていきます。

## 2の考察

学校・保護者・地域の皆様とが協力して子供たちを見守り、支えていくことで子供たちのよりよい成長が望めます。そのためにも、学校の情報・状況をオープンにして、保護者・地域の皆様に知っていただきたいです。学校のホームページの定期的な更新に加えて、授業公開や学校行事等を行い、直に子供たちの様子や教職員、学校全体を見ていただくことを続けていきます。また、授業への参加（ゲストティーチャーや学習ボランティア等）も積極的にお願いしていきます。

## ○教職員への質問

質問	肯定的な回答の割合
1 三つの資質・能力を育む授業ができていますか	97%
2 教職員の働き方改革が進んでいますか	81%
3 本校で働くことにやりがいがありますか	98%

## 1の考察

「考えを共有し、比較・分類・精査することを通して自分の考えを深められる児童の育成～対話的活動を通して～」というテーマで校内研究に1年間取り組んできました。低中高学年部会で研究授業を1本ずつ行いましたが、研究授業で出た成果と課題を日常の授業にも生かし、児童に三つの資質・能力を確実にほぐむ授業を各教員が実践できたことがこの高い数値の表れです。管理職の授業観察後の指導・助言、教員同士の相互授業観察とアドバイスを合ったことが確実に授業改善にも結び付いています。

## 2の考察

学校行事の精選、会議の縮減等を行い、教員が専門性を発揮する時間（教材研究や児童と関わるための時間）を増やしたことで働き方改革を進めています。勤務時間内に業務を終えられるように一人一人が意識しているこ

とも働き方改革を進める上で重要なことです。まだ2割程度、働き方改革が進んでいるとは言えないと答えているので、前述の視点で更に働き方改革を進めていきます。

### 3の考察

教職員が学校のために、子供のために準備をし、計画をし、授業や運営をしたことに対して、積極的に評価し、教職員同士でも褒め合う風土ができています。大人でも褒められれば嬉しいですし、頑張ったことに対して肯定的な評価をされることは、やる気や意欲も湧いてきます。98%という高い数値が出たのは喜ばしいことです。ますます、全教職員が本校で働くことにやりがいをもてるよう、教職員のよさを伸ばし、積極的な評価をこれからも続けていきます。

### 3 評価結果の公表等

学校だより1月号に学校評価の結果を掲載し、学校ホームページ及びシグフィにて保護者や地域の方に公表した。

### 4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

児童、保護者・地域、教職員の学校評価の結果を受けるとともに、国・都・区の教育施策や学校を取り巻く環境等を鑑みて、令和7年度は、以下の点を改善して、教育活動を進める。

#### ①夏季水泳指導の中止

昨今の猛暑は、とどまることを知らず、特に7月・8月は、WBGTも運動原則中止の31を超える日が非常に多い。令和6年度は夏季水泳指導を六日間設定したが、気温・水温ともに高く、またプールサイドの高熱化もあり、安全に水泳指導が実施できないと判断し、中止とした回も多かった。そこで、水泳指導は6月から7月の終業式までの日に、必要な指導時数を各学年で終え、夏季水泳指導は実施しないこととした。

#### ②運動会を10月第4週の土曜日に設定

1とも関係があるが、これまで10月第2週に運動会を行っていたが、まだ気温が高く、熱中症のリスクが高い。10月第2週に運動会をするということは、9月初旬から練習を始めることになるので、練習をするのにも常に熱中症対策が求められる。この運動会の開催時期を2週遅らせることで、運動会開催時の気温もだいぶ低くなるとともに、練習期間中も、これまでよりは、熱中症のリスクを回避しながら安全に進められると判断した。運動会当日は体力も気力も相当使うため、月曜日を振替休業日とすることで、児童がゆっくり身体を休められる期間としたい。

#### ③第3学年以上の一部教科担任制の導入

これまで専科教員や時間講師等がその専門性を発揮し、授業を行ってきた。各教員が各々の専門性を発揮し、指導する教科を絞ることで教材研究にける時間を十分に確保することで質の高い授業を行うことができる。それは児童の学力向上にも直結する。そこで、社会・理科が始まる第3学年以上の一部教科担任制を導入する。(例)3学級の学年と仮定して：1組担任が2組・3組の体育も教える、2組担任が1組・3組の社会も教える、3組担任が1組・2組の理科も教える。

#### ④学校だよりと学年だよりの統合

本校では毎月月末に学校だよりと学年だよりをSigfyで配信してきている。学年だよりには行事予定と学習予定を主に掲載している。行事予定は学校だよりにも掲載されているため、あえて学校だよりと学年だよりに分けて配信するよりも、学校だよりに各学年の学習予定や授業時数等を併せて掲載することで、読み手の保護者や地域の方も1枚で全ての情報をつかむことができると考え、学校だより1本に統一することとした。なお、学年で個別に連絡する必要がある場合は、学年だよりを臨時で出す可能性もある。

#### ⑤校舎長寿命化工事への着手

一定の老朽化がある本校校舎にいわゆる“新築そっくりさん”工事を施して、現躯体を活用して、新たな施設環境を作る。令和7年度は実施計画の策定期間。実際の工事は令和8・9年度。全面改築に比すると、負担は低減されるが、工事期間は一部仮設校舎を使用する見込みである。